

授業改善等に関する報告書（2022年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2022 (後期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Academic English	佐々木 真理	毎回課題の多い授業だったと思いますが、皆さん熱心に取り組んでくださいました。12月以降、私の体調不良のため休講が続いてしまってご迷惑をおかけしました。
Academic English	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございます。本科目は必修授業ですので、他のクラスとの兼ね合いをもみつつ、授業の展開の仕方を今後も検討し改善していきたいと思えます。充実した最後の一年となりますように。
Academic English	諏訪 友亮	ほとんど全ての項目で平均を上回ったが回答数が少なかった。来年度は回答数を増やし、双方向での質問のしやすさを改善したい。
Academic English	土屋 結城	3年生後期の必修科目ということで、卒業論文につながるような英語でのライティング能力、リーディング能力を中心に全体的な英語のスキルアップを目的とした授業であり、授業アンケートでは、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.20~4.60の評価を得た。授業の目的、内容に関して一定の理解を得られたと思う。課題としては、アンケートの回収率の低さと英語運用能力のさらなる向上が挙げられる。アンケートの告知に十分な時間を取るよう時間配分を工夫したい。
Academic English	島 高行	アンケートに答えてくれた皆さん、ありがとう。これからも学びを続けてください。
Basic Grammar b	金田 迪子	今年度は、受講者が1文単位で英語の文章の内容を正確に理解することができていることを目指し、英文のマーキングと日本語での文法事項の定着に重点を置いた授業を行いました。結果、学期中に1度ずつ実施した中間試験と期末試験の間には大きな点数の伸びが認められ、受講者の英語の基礎的な力の伸びを実感できたことを嬉しく感じています。当該区分平均を上回った点については、授業方法についてはmanabaや個別指導機能での情報のフォローを評価された点を今後の授業にも反映したいと思えます。また本講座では、受講者が自身の成長を実感できた点、英語の文法についてさらに学びたいと関心を深められた点、意欲的に取り組んだと自負できる点で平均を上回ることができ、今後の授業の参考とさせていただきますと思えます。当該区分平均を下回った点については、発話の聞き取りにくさや説明のわかりにくさが継続的な課題と考えていますので、聞く学生の立場を意識したパフォーマンスを行っていくことで改善につなげていきたいと考えています。ご回答を誠にありがとうございました。
Basic Reading b	土屋 結城	英語でのリーディング能力を中心に全体的なスキルアップを目的とした授業であり、授業アンケートでは「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.35~4.58の評価を得た。授業の目的、内容に関して一定の理解を得られたと思う。課題としては、英語力のさらなる向上をうながすための取り組みや配布資料等の工夫が挙げられる。
Paragraph Writing b	志渡岡 理恵	習熟度別の科目だったが、履修生の英語力や意欲にかなりばらつきがあったように思う。1回のクラス分け試験はうまく機能しているのだろうか。コメントも、「英文の書き方がよく分かった」、「ライティングばかりでなくリーディングの力も伸ばすことが出来た」というものもあれば、「最後の方は難しくて大変でした」というものもあった。
Paragraph Writing b	柳田 亮吾	この授業では英文法のおさらいと英作文に取り組みました。授業はまず教科書にそって文法のおさらいをし、その後に学んだ文法知識をもとに英作文をしました。授業中はなるべく皆さんとコミュニケーションをとり、英作文の際もなるべく皆さんが質問をしやすいように心がけました。みなさんの評価・コメントを拝見しますと、現状の形の授業の進め方で問題ないようですので、来年度も基本的にはこの形で進めたいと思えます。
Paragraph Writing b	金田 迪子	アンケートにご回答いただいた受講者のみなさんには、お忙しい中貴重なお時間をいただきありがとうございます。今学期の授業については、パラグラフの内容を支える文法事項を中心に授業を進めましたが、座学にあたる部分が時間の多くを占めてしまい、結果としてやや意欲を持ちにくい内容となってしまったかと反省しています。今回のアンケートで平均を下回った点については、次年度前期の授業にフィードバックを積極的に反映させていきたいと思えます。具体的には、声や言葉、説明がわかりにくいという点が大きな課題であると考えています。これらの項目については、聞く受講者の立場を意識したパフォーマンスを行うことから改善していきたいと考えています。また、わかりにくさについては、スライドなどの視覚情報で音声情報を補う、受講者にとって聞きたい情報が入ってきやすいように説明の順番を工夫する等での方法でも改善を行っていききたいと思っています。ライティングをより学びたいという受講者の意欲については平均を上回っており、期待に沿えなかったことを申し訳なく思うとともに、本科目に対する受講者の期待として今後の授業運営の参考にさせていただきます。ご回答ありがとうございます。

[2022 (後期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Intensive Reading b	塩田 航希	<p>授業アンケート結果に基づくフィードバックをいたします。改めましてご丁寧な授業アンケートにご回答いただき誠にありがとうございました。</p> <p>まず簡潔に授業を振り返るとみなさん1人1人が一生懸命に授業に取り組んでいたと感じております。3時限目の授業ということで昼食後の睡魔に負けても不思議ではない時間帯ですが集中してメモを取ったり積極的に発言されておりました。またmanabaや授業後を通じてご質問を受けることも頻繁にございました。そのような取り組み姿勢に大変感謝しております。私自身に関してもみなさんのお陰で非常に充実した時間を常に過ごすことができました。それでは本題に入りたいと存じます。</p> <p>1. 全体平均を下回った項目</p> <p>全体平均を下回った項目はございませんでした。私としてはあらゆる項目で高評価をいただいたことは大変嬉しく存じます。つまり学生のためになる授業を実施できたのではと感じております。その一方で『先生は完璧主義...』というある学生のコメントからも分かるように履修者全員が⑤を選択するような授業を目指す必要があると強く感じております。そこで学生のコメントを表現を変えて抜粋して改善するポイントを次にまとめます。</p> <p>2. 改善が必要なポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発言および挙手数を増やすためには学生に自信を与えるようにすると良いと思う。 自信を与えるために復習の時間を今より確保すると良い気がする。でも個人的に発言しやすい雰囲気でした。 <p>(改善案) 授業開始時の復習時間の確保に関しては学生全体のコメントから全員満足しているように感じておりました。そこで自信を持たせるという点に対しては発言を求める前にグループなどを形成して回答の確認をし合うといった時間を設けると良いかな?と今回思いました。あとは褒めることが大切だと思うのもっと褒めるようにします。これに関しては今後も試行錯誤の日々が続くと思うので色々試してみようと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 復習の時間を多く設けていただけたことが知識定着に繋がったと思う。しかしその一方でもっと多くの英文を読みたいと思った。 <p>(改善案) 履修者の中でも特に英語を読むのが得意でもっと読みたいという学生がいることも理解しております。その一方で現状の授業進捗が良いという学生もやはりいるのもっと読みたい学生には個別に対応することを検討したいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発言した際に聞き取れないと時折言われてしまうところを改善して欲しい。 <p>(改善案) これに関してはもっと大きな声で話してくださいではなくマイクを活用することを積極的に検討いたします。現状は教員または発表者がマイクを使用しているためマイクの数に限りがあります。そこで今後はマイクを複数確保できるかどうかを事前に確認するようにいたします。</p> <p>3. 履修者のコメントから評価されているポイント (一部抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理解度確認の時間を毎回設けていただけたことが良かった。 ・ 挙手性の導入が授業に対する意欲を高めることに繋がった。 ・ 授業の明るい雰囲気形成の上で先生の個人的なお話が良かった。 <p>その他にも『学校に行こうと思える授業』など載せきれないくらいございました。本当にたくさんのコメントをありがとうございます。</p> <p>『メッセージ』 みなさんが今回学修した内容は休暇中もしっかりと復習してください。また英語には確実に正しい説明を与えることができない現象がまだまだたくさんございます。だからこそ一筋縄ではいきませんが継続して勉強することが大切です。お互いに頑張りましょう。授業でもお伝えしたようにどんなことでも構いませんので今後も遠慮なくご連絡ください。</p>

[2022 (後期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Paragraph Writing b	塩田 航希	<p>授業アンケート結果に基づくフィードバックをいたします。改めましてご丁寧に授業アンケートにご回答いただき誠にありがとうございました。</p> <p>まず簡潔に授業を振り返るとみなさん1人1人が一生懸命に授業に取り組んでいたと感じております。週2回の授業ということでみなさんが予習・復習が大変だったように私自身も授業準備が大変でした。しかしみなさんの取り組み姿勢のお陰で最後まで全力で頑張ることができました。特に授業後半はみなさんが書いたメモの量や積極的な発言姿勢に私も負けてられないと思いました。つまり私自身に関してもみなさんのお陰で非常に充実した時間を常に過ごすことができました。それでは本題に入りたくと存じます。</p> <p>1. 全体平均を下回った項目 (1項目)</p> <p>Q1: あなたのこの授業の欠席回数はどのくらいでしたか?</p> <p>週2回の授業ということが学生の負担に大きかったことが影響したとも考えられるでしょう。しかしある学生のコメントに次のようなものが実際にございました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝起きてから『今日少し面倒くさい』と感じてもこの授業があるから行こうかなという気持ちになれた。 <p>このコメントからも分かるように授業の魅力度が向上すれば学生の欠席頻度は低下するのではと感じました。そこで授業アンケートのコメントを表現を変えて抜粋して改善するポイントを次にまとめます。 (改善は必要ないというコメントも実はございましたが完璧を追求する姿勢を大事にしたいと思います)</p> <p>2. 改善が必要なポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で使用している資料が見えないことが多かった。 座る座席に影響されずに誰もがはっきりと見えるように配慮してもらいたいです。 <p>(改善案) これに関しては教室変更や授業前半に見えるかどうかを確認しておりましたので問題ないと思っておりました。もしかしたら言いづらかったのかもしれませんが。具体的な改善案としては文字サイズを可能な限り大きくするまたは資料をwordから別のものに変更することを検討いたします。また授業資料を事前に配布するなど候補として考えたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時々比較していたのが気になった。 <p>(改善案) 例えば比較の一例として前期の同授業の様子や発言数の目安として前期の学生の発言数などの話をしたことがございました。今後に関しては目安や基準といったものに関して前期や前年度比較ではなくて独自の基準として学生に説明するようにいたします。私個人の過去の経験から比較されるとより一層頑張ると誤解していた部分もあると思います。学生を鼓舞する方法なども学生に応じて変えるように気をつけたいと思います。</p> <p>3. 履修者のコメントから評価されているポイント (一部抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の意見をすぐに反映してくれるのと授業の質が高いと感じる。 ・挙手性の導入が授業を楽しめるものになっている。 ・書いた英文を一人一人丁寧に添削およびフィードバックしてくださるのは今後に活きると思う。 <p>その他にも『先生の授業を今後も履修したい』など載せきれないくらいございました。本当にたくさんコメントをありがとうございます。</p> <p>『メッセージ』 みなさんが今回学修した内容は休職中もしっかりと復習してください。また英語には確実に正しい説明を与えることができない現象がまだまだたくさんございます。だからこそ一筋縄ではいきませんが継続して勉強することが大切です。お互いに頑張りましょう。授業でもお伝えしたようにどんなことでも構いませんので今後も遠慮なくご連絡ください。</p>
アメリカ文学・文化演習 d	深瀬 有希子	<p>アンケートへの回答をありがとうございました。今後も授業の改善に努めていきたいと思っております。充実した最後の一年をおくれますように。</p>
アメリカ文学・文化演習 h	佐々木 真理	<p>半年間、お疲れ様でした。決してわかりやすい内容ではない題材のテキストでしたが、毎回の小テストや期末課題に、皆さんが一生懸命取り組んでくださって嬉しく思いました。教室が受講者数よりも大きめの教室でしたので、今後は、学生の皆さんにテキストを読み上げてもらうときはマイクを利用してもらうことにいたします。</p>
アメリカ文学・文化講義 d	深瀬 有希子	<p>アンケートへの回答をありがとうございました。資料の種類などさらに工夫をしていきたいと思っております。新学期も充実した日々となりますように。</p>

【2022（後期）英文学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
アメリカ文学史 a	稲垣 伸一	授業アンケートへの回答率があまり高くないため、アンケート結果からは授業に対する評価を知ることはできませんでしたが、授業実施中は決して多くの履修者がよく授業を視聴して課題に取り組んでくれていたという印象を持っています。今後、演習科目等でアメリカ文学・文化の授業を履修する機会もあると思います。その際に、この授業での内容を思い出して先につなげていってくださると担当者としてはうれしいです。お疲れ様でした。
イギリスの文化と社会	志渡岡 理恵	オンデマンド授業ということもあり、112名の履修生のうち回答者は3割ほどだったが、授業資料の説明が分かりやすかった、理解・関心が深まった、などのコメントが複数寄せられていたのでよかった。
イギリス文学・文化演習 b	志渡岡 理恵	後期最後の授業で発表者へのコメントが終了時間間際までかかってしまい、アンケート回答の時間を取るが出来なかった。来年度は早めのアンケート告知を心がけたい。
イギリス文学・文化講義 b	島 高行	アンケートに答えてくれた皆さん、ありがとう。 この授業で学んだことをこれからの学びに活かしてください。
イギリス文学史 b	土屋 結城	18、9世紀から現代に至るまでのイギリス文学の歴史を理解し、それとともにイギリスの文化、社会についての理解を深めることを目標とした授業である。アンケートの回答率がそう高くはなかったが「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.65~4.70の評価を得た。概ね、授業の内容や目的に関しての理解は得られたと思う。今後の課題としては、双方向性の確保と、事前事後学修の充実並びに学生の関心を継続できるような工夫をすることが挙げられる。オンデマンド授業における双方向性に関しては、フィードバックの充実を今後も図るなどして改善したい。また、学生の関心を喚起できるような関連資料も積極的に紹介していく必要があると思う。さらに、アンケートの締め切り日を勘違いしていたため、回答率が低くなってしまったが、スケジュール管理を工夫したい。
ことばと社会	柳田 亮吾	この授業は社会言語学の基礎について学びました。全体として良い評価を頂き大変嬉しく思います。わかりやすかったや興味を持ってたなどといったコメントを頂いたので、授業での工夫と努力が報われたと思います。また、外国人講師の講演も評判がよかったので、来年度もさらなる工夫を凝らしたいと思います。 社会言語学に興味をもってくださった方は2年生以降英語学系の授業の履修を検討してみてください。
英語学演習 d	野村 美由紀	この授業では、毎回、manabaによる小テスト課題を出していましたので、授業後の復習もしなくてはならなくて、毎回の提出が大変だったこととは思いますが、この授業に概ね満足されたようでしたので、懸念が解消されました。今年は授業のハンドアウトを穴埋め式に変えまして、進度が遅くなってしまいましたが、授業内容が「まあまあ理解できた」ようですので、その点は良かったです。
英語学概論 b	柳田 亮吾	英語学概論は、前期の授業で苦手意識を持たれた方が多かったようですので、後期はなるべくわかりやすく、とっつきやすい内容になるように心がけました。しかしながら、みなさんの評価やコメントを拝見すると、まだまだ専門的で内容が難しかったというご意見も一定数あり、来年度以降もう少し内容を工夫したいと思います。ただ、授業で提示した例や動画などが分かりやすく、親しみやすかったというご意見もあり、少しは努力と工夫が報われたようで大変嬉しく思っております。他に1本の動画が長い、説明をより体系的にというご意見も頂きましたので、来年度に活かしたいと思います。また、この授業が面白かったという方は是非来年度英語学演習を履修して頂ければと思います。
英語圏の詩	諏訪 友亮	説明がわかりやすいというポイントが高かった一方、満足だと答えた学生の割合は低くなってしまった。一部で扱っている長い作品を読みやすい短い作品に変え、まずは負担感をなくすことから始めてみたい。
英文入門セミナー	稲垣 伸一	前期「実戦入門セミナー」の内容も踏まえて、進歩の跡が見られるレポートやプレゼンテーションが多く見られたのは、履修した多くの学生さんの努力の表れだと思います。 この授業の内容は、今後の大学での学びに直接つながるものですので、時々思い出して今後の授業に役立ててください。
英文入門セミナー	志渡岡 理恵	1年生の必修科目ということもあり、出席や課題提出、授業への取り組み方などについて注意することが少なからずあったが、読解力や思考力、レポートを書く力などが身についたとコメントしてくれている履修生が複数いて、成長を実感できたようで嬉しい。
英文入門セミナー	猪熊 作巳	グループごとの活動を主体として授業を進めた効果か、多くの学生が責任感をもって努力を継続してくれたと思います。

[2022 (後期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英文入門セミナー	土屋 結城	英文学科の専門教育への学びの入口となる授業だが、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.25~4.65の評価を得た。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。今後の改善点としては、グループワークやレポート準備の段階から積極的にコミュニケーションを取り、学生の作業に関わっていくようにする必要がある点と、学生の関心を継続させるため、関連資料などを紹介するなどの工夫を図る必要がある点を挙げられる。
英文入門セミナー	柳田 亮吾	この授業では英文学科の3つの専門的な学びの初歩について、講義とリーディングをもとに学びました。リーディングの内容を事前に予習し、授業はペアやグループで内容を確認と言う形で進めましたが、皆さんのご意見をみるとこの形でよかったようですね。また、発表にあたってはスライドや発表の仕方の工夫についてお話し、みなさんがグループワークを通して意欲的に取り組んでくれたと思います。レポートの書き方は1年をとおして何度かお話ししましたが、未だ自信がないという人は再度確認頂きたいと思います。他のクラスと比べて宿題が多いというご意見を頂きましたが、私としては必要最小限の課題を課したつもりなのですが…来年度以降課題の内容について検討したいと思います。
英文法論	猪熊 作巳	学習英文法と言語学研究の双方を視野に入れた難しい授業でしたが、文法理解に深みを得られた学生が多く、意味のあるコースとなりました。
言語習得論	猪熊 作巳	完全オンデマンドのため取り組み状況にムラが大きくなりましたが、期末課題では多くの学生が自分なりに考察を試みたことが伝わりました。
時事英語演習	野村 美由紀	履修した理由が「授業内容に興味があったから」という回答が一番多かったことで、時事英語に関心があることが分かりました。この授業では、毎回、manabaによる小テスト課題を出していましたので、毎回の提出が大変だったこととは思いますが、この授業に概ね満足されたようで、良かったです。
女性と英語圏文学 b	佐々木 真理	毎回の課題に皆さんが熱心に取り組んでくださり、楽しく面白く読ませていただきました。女性作家についての知識や理解が深まったとのコメントを頂戴して嬉しく思っています。
卒論セミナー b	稲垣 伸一	履修者の皆さん全員が1年間、真剣に卒業論文に取り組んでくださったと思います。そのため、提出された論文はとてもクオリティの高いものに仕上がっていました。ここで学んだ論理的な文章の書き方を、是非、将来役立ててください。皆さん、お疲れ様でした。
卒論セミナー b	佐々木 真理	一年間本当にお疲れ様でした。皆さんそれぞれテーマに一生懸命に取り組まれ、素晴らしい卒論を書き上げられました。3年ぶりにすべての面談を対面で行うことができ、原稿にコメントしながら直接指導できたのが嬉しかったです。
卒論セミナー b	志波岡 理恵	卒論指導が忙しく、アンケートの告知を忘れてしまったが、18名のゼミ生のうち5名は回答してくれていて、嬉しいコメントも書いてくれていた。12月の卒論締切前のアンケート告知を心がけたい。
卒論セミナー b	深瀬 有希子	アンケートへの回答はありませんでしたが、みなさんの充実した卒論が完成して嬉しく思っております。卒業後のご活躍をお祈りいたします。
卒論セミナー b	諏訪 友亮	授業が進むスピードとシラバスの説明だけが不十分だったようです。後期の卒論ゼミでは個人面談が中心になり、個々の進捗に合わせて進められますので、その点を入念に説明し誤解を取り除きたいと思います。
卒論セミナー b	猪熊 作巳	それぞれの関心に基づいて、地道な努力を続けられたと思います。
卒論セミナー b	土屋 結城	大学での学びの集大成となる卒業論文に向けての授業だが、「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.67~5.00の評価を得た。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。今後の課題としては、事前事後学修を充実させるために、学生に課している課題の内容や授業での発表内容を再検討することが挙げられる。具体的には、卒論の向けのリサーチを早い段階から進められるように課題や授業の内容の内容を見直したい。また、アンケートの回答率も低かったため、十分な余裕をもって告知できるようにしたい。
卒論セミナー b	島 高行	卒業論文、皆さんよく頑張ってくれました。大切にしてください。

[2022 (後期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論セミナー b	難波 雅紀	<p>前期の「卒論セミナーa」では、主にZoomを使った個人指導をととして卒論のテーマや題材を確定させ、論文の構想・構成を各自で練り上げることに取り組みました。後期の「卒論セミナーb」では、前半の授業は対面で行い、練り上がった論文の構想・構成をより具体化し、卒論の目次をまず作成しました。その上で、後半の授業はZoomを使ったオンラインでの指導により、目次に沿うような流れで論文原稿の執筆と推敲を重ねていきました。ひとり平均10回の個人指導を行ない、最終的な卒論完成に至りました。</p> <p>卒論作成に係わって多くある誤解は、原稿を書くという行為が作業全体の大半を占めるといえるものです。原稿用紙換算で50枚以上になる文章をひとつのテーマで書くためには、事前に、テーマと題材の結びつけ方、それを具体的に論じていくストラテジー（戦略）を入念に立て、それに係わる資料の収集と整理を十分に行なう必要があります。そして、実はそれに費やす時間や労力の方が、文章を書く行為に割くよりも圧倒的に多いのです。卒論作成を首尾よく進めるためには、まずこの事実をしっかり認識しなければなりません。</p> <p>そういうわけで、書く前提として不可欠上記の作業にあまり重きを置かなかった学生は、実際に文章を書いているうちに、何をどう書けばいいのかわからなくなってしまい、立ち止まってしまうことが多かったように思います。文章を推敲したくても時間がなかったのではないのでしょうか。</p> <p>書くということは、自分の語彙で自分の内面や考えを上手く他者に伝える、人間にとっての必須の手段だからです。言葉は儂いし脆いものですが、そのことを分かって丁寧に、誠意を込めて書くことが大切です。</p> <p>以上</p>
卒論セミナー b	柳田 亮吾	<p>概して良い評価を頂いて嬉しく思います。後期の卒論ゼミは面談が中心ですので、個々のゼ生の個性や進捗状況に合わせてお話をことを心がけました。みなさんよく頑張ってくれて、よい卒論を書いてくださったと思います。もう少し卒論を早めを書くように指導してはどうかというご意見もありがとうございます。来年度に活かしたいと思います。</p>